

医学部アドミッションポリシー

教育内容・特色

医学部は、高度な教養、専門性、情報力、行動力および自己実現力を身につけて、未来の医療を担い医学をリードする医療人と医学・保健学研究者を育成します。医学は、人類の健康と福祉に貢献することを使命とします。従って、その育成には、医学に関する知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。わたしたちは「あなたのそばに先進医療」を原点理念とし、その実現に向けて特色ある教育を行っています（詳細は各学科の「教育内容・特色」を参照ください）。

求める人材

医学部では、未来の医療と医学を支える医療人および医学・保健学研究者にふさわしい人として、各学科・専攻で実施される専門教育の学修に必要な基礎学力と語学力、コミュニケーション能力を有し、医療人および医学・保健学研究者としての知的探究心と高い志を持ち、入学時点で相応した倫理観と豊かな人間性を備えた人を求めています。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です（詳細は各学科の「求める人材」を参照ください）。

選抜の基本方針

各学科のアドミッションポリシーを参照ください。

医学部医学科アドミッションポリシー

教育内容・特色

医師・医学研究者の育成には、科学知識と技術の修得とともに豊かな人間性の教育が強く求められます。医学科の使命は、「医の倫理に徹し、科学的思考法と高度の医学的知識を体得し、社会的信頼を得るに足る臨床医並びに医学研究者を養成し、もって人類の健康と福祉に貢献する」ことです。特色ある6年間の医学教育を経て、医学・医療の進歩、社会のニーズに対応して絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり社会へ貢献できる、世界に通用する医療人を育成します。

求める人材

医学科では、将来の医学・医療の担い手として次のような人材を求めています。

1. 医師に必要な使命感、豊かな人間性、高い倫理観、コミュニケーション能力を持っている人
2. 医学・医療の進歩に対応するために必要な、幅広い基礎的学力と語学力、問題解決能力を持っている人
3. 知的探究心が強く、とくに生命科学に対して深い関心を持っている人

高等学校において、論理的思考力を身につけ、筋道の立った文章を書き、自然科学の基礎知識と思考方法を習得しておくことが必要です。入学後の学修のため、高等学校において修得していることが望まれる教科は、国語、外国語、地理歴史、公民、数学、理科です。

選抜の基本方針

・一般入試(前期日程)

5教科7科目の大学入学共通テストを課し、高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力検査等では数学・理科2科目・英語を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。また面接により、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。

・学校推薦型選抜Ⅱ(大学入学共通テストを課すもの)

地域枠コースとして募集、選抜を行います。調査書・志願所信書等の書類審査と面接試験で、志望する各県の出願要件をみたし、各県が貸与する奨学金を受給し、かつ当該県内での医療に従事する強い意思を確認し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に判断します。入学後の学修のため、5教科7科目の大学入学共通テストを課し、基準点（概ね780点）以上の者から選抜します。

・私費外国人留学生特別入試

本学の定めた出願資格を満たしている者に対して、書類審査、日本留学試験（日本語、数学コース2、生物および他1科目理科）を課し、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力を評価します。個別学力試験では数学・理科2科目・外国語を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・国際バカロレア選抜

国際バカロレア資格（IB最終成績評価39／45点以上）を有し、日本語（言語Aで成績評価4以上、または言語Bで成績評価Higher Level 6以上）、理科2科目および数学（所定の成績評価以上）を修得した者に対して、書類審査を行い、日本の高等学校卒業レベルの基礎学力および医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

・第2年次編入学（学士入学）

本学の定めた出願資格を満たしている学士に対して、書類（TOEFL-iBT成績証明含む）審査を行い、課題作文で論理的思考能力と生命科学に対する理解度を評価します。学力試験では生物学、科学英語を課し、医学を学ぶ上で基盤となる科目への理解度を評価します。さらに面接を課し、将来の医学・医療の担い手としての適性を総合的に評価します。

医学部カリキュラムポリシー

医学部ディプロマポリシーに掲げる学士力（人間性に富む豊かな教養、目的につながる専門性、効果的に活用できる情報力、時代と社会をリードする行動力、生涯にわたる自己実現力）を備え、世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人、医学・保健学研究者を育成するため、教養教育科目と専門教育科目とで構成される体系的なカリキュラムを提供しています。教育課程全体を通じた学修成果により、国家資格の受験資格を取得できます。学部カリキュラムは、大学院博士課程への進学や卒後研修に連動しており、持続可能な社会の実現に貢献できる人材育成に取り組んでいます。

医学部医学科カリキュラムポリシー

(1) 教育課程の編成:

医学科ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力(人間性に富む豊かな教養, 目的につながる専門性, 効果的に活用できる情報力, 時代と社会をリードする行動力, 生涯にわたる自己実現力)を備え, 世界の多様な課題に取り組むことのできる医療人, 医学研究者を育成するため, 医学教育モデル・コア・カリキュラムに提示されている教育内容を包含した6年一貫教育カリキュラムを構築しています。

(2) 教育・学修方法:

専門分野の教育では, 講義に加え, 演習・実習などの少人数教育の利点を生かした実践的な授業を多数設定しています。3年次の「医学研究インターンシップ」では, 配属先の研究室(海外含)で最先端の研究に取り組み, 課題発見・問題解決能力を獲得します。全国共用試験(CBT・OSCE)を経て, スチューデントドクター認定後に実施する5・6年次の臨床実習では, 診療チームの一員として積極的に医療に参加する診療参加型臨床実習を行い, 医療人としての実践能力を身につけます。

(3) 学習成果の評価の方針:

講義の学習成果は, 授業の特性に合わせ, 試験・レポート・授業での課題等により, 演習や実習では, 課題の実施状況やレポート, ポートフォリオ等で総合的に評価します。医学研究インターンシップは, 日々の取り組み状況(ルーブリック評価)と, 研究成果の発表により評価します。臨床実習は, 各診療科の定める達成度評価(ルーブリック評価, mini CEX など)に従って評価します。

人間性に富む豊かな教養【教養】

高い倫理観と幅広い国際的な教養, 豊かな人間性を身につけるため, 1～2年次の教養教育に加え, 専門教育では, 1年次の「医学概論」, 「臨床医学入門」で医学の概観と根本を学び, 「プロフェッショナルリズム・行動科学」で, 医療人・医学研究者としての職業観を養います。2年次の「医学史」では医学を築いてきた先人に学び, 3年次での「レギュラトリーサイエンス」, 4年次での「生命倫理学」, 「医事法」では, 倫理的・法的観点から医療人・医学研究者に求められる素養を獲得します。さらに, 4年次後半からの診療参加型臨床実習では, 相手を理解する傾聴力と相手に寄り添う共感力を身につけます。

目的につながる専門性【専門性】

専門基礎科目と専門科目の螺旋型カリキュラムにより, 1年次に生命科学の基礎を修得し, 1年次後半～3年次に正常な人体の構造と機能, 様々な病因によって引き起こされる病態, 薬物反応等, 医療人・医学研究者に必要な専門的知識を段階的に学びます。3年次には, 海外を含む学内外の研究室で研究を実体験する「医学研究インターンシップ」で, グローバルな科学的思考力と対応力を育てま

す。4年次では、臨床医学と社会医学を学修し、4年次後半～6年次では、多職種医療チームの一員として海外臨床機関を含む臨床現場で診療参加型臨床実習を行い、世界に通用する職業的な知識・思考法・技能・態度の基本を実践的に身につけます。

効果的に活用できる情報力【情報力】

1年次に教養教育科目にて情報リテラシーの基礎を、2年次に「データサイエンス」にてデータリテラシーの基礎を学修し、3年次では「バイオメディカルデータサイエンス」にて医学に特化した情報の数理解析方法を学びます。また、効果的にグローバルな情報発信ができる能力を身につけるため、3年次初期に「基礎病態演習」を、4年次後半に「臨床病態演習」を履修し、情報活用能力を養います。4年次後半～6年次の参加型臨床実習では、疾患を判断・治療するための情報収集・分析を行い、社会的・心理的な背景を考慮した全人的教育により、情報を正しく活用できる力を養います。

時代と社会をリードする行動力【行動力】

1年次の「医学セミナー」では、自ら情報を収集し、主体的に課題解決に取り組みます。1～3年次に行う、「プロフェッショナリズム・行動科学」と「地域医療体験実習」では、社会の現状と問題点を理解し、地域住民や多職種の医療従事者とのコミュニケーションを通して、医療人・医学研究者として高い協調性と社会性を育てます。さらに、4年次後半～6年次の参加型臨床実習では、スチューデントドクターとして多職種医療チームの一員となり、専門職業人としての知識・技術の獲得と、状況に応じた柔軟な対応力を養います。

生涯にわたる自己実現力【自己実現力】

1年次早期に医療・福祉の現場を自ら体験し、患者の傍らにいたいこと、共感的態度を学びます。1年次の「医学セミナー」、3年次の「基礎病態演習」、「医学研究インターンシップ」では、グローバルな社会の課題や問題点、ニーズに対する解決策を自ら考え、実行する力を養います。6年次では、選択制臨床実習による総合的な自己研鑽を通して、生涯にわたり自己の成長を追求できる医療人を育成します。

岡山大学医学部ディプロマポリシー

岡山大学医学部は、所定の期間在学し、所属学科の定める授業科目を履修して、所定の単位を取得し、以下の学士力を基本的に修得した学生に学位を授与する。

・人間性に富む豊かな教養【教養】

医療人、医学・保健学研究者として世界の多様な問題に対して関心を持ち、人間性や倫理観に裏打ちされた豊かで国際的な教養を身につけ、病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴、共感できる。

・ **目的につながる専門性【専門性】**

時代に応じた健康・医療に関する専門的学識と時代を担う技術を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。

・ **効果的に活用できる情報力【情報力】**

自ら健康・医療，医学・保健学に関する情報を収集・分析し，効果的に活用し，グローバル社会に向けて情報発信，情報共有ができる。

・ **時代と社会をリードする行動力【行動力】**

医療人，医学・保健学研究者としてのコミュニケーション能力を有し，グローバルマインドを持って，多職種医療チームの一員として責任を持った行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。

・ **生涯に亘る自己実現力【自己実現力】**

世界に通用する医療人，医学・保健学研究者として，絶えず医療の質の向上に努め，自立して生涯に亘り自己の成長を追求できる。

医学部医学科ディプロマポリシー

所定の期間在学し，学科の定める授業科目を履修して所定の単位を取得し，全国共用試験および卒業試験の基準点を満たし，以下の学士力を基本的に修得した学生に学位を授与する。

・ **人間性に富む豊かな教養【教養】**

医療人・医学研究者としての高い倫理観と幅広い国際的な教養，豊かな人間性を身につけ，病める人や立場・職種の異なった人の話を傾聴、共感できる。

・ **目的につながる専門性【専門性】**

医療人・医学研究者として必要な専門的知識と実践的能力を身につけ、獲得した知識と能力を活かしてグローバルに活躍できる。

・ **効果的に活用できる情報力【情報力】**

医学的情報を収集・分析し，的確な判断のもと課題解決にむけて正しく活用できるとともに，グローバル社会に向けて適正かつ効果的に情報発信できる。

・ **時代と社会をリードする行動力【行動力】**

高い協調性のもとに世界に通用する専門職業人としての指導力を発揮し，多職種医療チームの一員として責任をもった行動と状況に応じた柔軟な対応ができる。

・ **生涯に亘る自己実現力【自己実現力】**

絶えず医療の質の向上に努め、生涯にわたり自己の成長を追求できるとともに、グローバルな社会のニーズに対応した持続可能な医療を実現できる。

医学部医学科コンピテンシー

学科 DP	学科 DP 要素	コンピテンシー	コンピテンシーの内容説明	学科 DP との関 連割合
教養	人間性に富む 豊かな教養	多様な問題に関心を持つ力	自然や社会の多様な問題に関心を持ち、探究心を高めることができる。	20
		多角的に考える力	問題を多面的に捉え、解決に向けて多角的に考察できる。	20
		論理的に考える力	問題解決に向けて論理的に思索できる。	20
		共感できる力	様々な状況の中で他者の意図や感情を思惟できる。	40
専門性	目的につながる 専門性	専門的な知識	医学生として必要な専門知識を習得している。	30
		専門的な技能	医学生として必要な専門技能を習得している。	30
		実践能力	医学生として相応しい態度で医療・研究を実践できる。	40
情報力	効果的に活用 できる情報力	情報収集力	自らすすんでエビデンスに基づいた情報を収集することができる。	30
		情報分析・判断力	収集した情報を的確に分析し正しい判断をすることができる。	30
		情報活用力	情報を適切に活用することができる。	20
		情報発信力	積極的かつ効果的な情報発信ができる。	20
行動力	時代と社会を リードする 行動力	コミュニケーション能力	他者を敬い、言語的または非言語的な意思疎通が円滑にできる。	30
		チームの中で責任を果たす力	医療安全を意識し、チームが機能するために責任ある行動ができる。	20
		問題を発見・解決する力	自ら問題点を発見し、解決に向けて行動することができる。	20
		倫理的に行動する力	倫理的に行動することができる。	30
自己 実現力	生涯に亘る 自己実現力	セルフマネジメント力	自立した個人として自らを俯瞰的に見ることができる。	30
		日常的な自己研鑽力	常に謙虚な姿勢で自らを省察し、自分自身の向上に努めることができる。	30
		共に学ぶ力	他者と共に、教え・学び合うことができる。	30
		未来を設計する力	社会のニーズを把握し、自分や社会の未来に向けた計画ができる。	10